

上・下流住民の交流による地域連携型で 自然と人間の共生を目指すドラゴンリバー交流会

特定非営利活動法人 ドラゴンリバー交流会

1. はじめに

九頭竜川は、幹線流路延長116km、流域面積2,930km²の北陸地方屈指の大河川である。この地域を代表する「母なる川」として、古くから人々の生活と密接な関わりを持ち親しまれてきた河川である。かつて、これらの河川は交通路であり、水運とそれに関連する生業を媒体として上流と下流の人々は深く繋がり、川を軸とした流域の文化圏が形成されてきた。しかし、社会経済活動等の変化により流域文化圏が崩壊し再構築が必要となってきた。

山に降った雨は森を育て、森から流れ出る水は田畑を潤し、飲み水を提供し川となって海に流出する。海に流出した水は魚等、海の生物を育て、再び蒸発して雲となり雨となって地上に降ってくる。この循環系が規則正しく維持されることにより、地球の循環系も維持されるのである。流域は地球の縮図という視点で川を軸として考え、行動しようというものである。下流域は上流域の保全によって守られている。上流の森を破壊すれば洪水が多発し飲料水が枯渇する。人間は水の循環を無視しては生きられない。流域は生命の水循環を核とする運命共同体である。流域を一つの運命共同体と見なし、上流から下流までの人々が自然と人間の間に共生と循環系を確立した生き方を構築する必要がある。

我々人間は、川への感謝の気持ちと自然に対する畏敬の念を持たなければならない。そのためには川を美しく、川に対する正しい科学的知識を知る必要がある。近年、これらの認識が薄らいできてしまっており、復活させる必要がある。人々が川に接する機会をつくり自然のメカニズムを知る機会をつくる必要がある。

したがって、ドラゴンリバー交流会の活動は、流域の一体化を図り災害に強い自然豊かな活力ある地域づくりを行い、すばらしい水系環境を構築し次世代に引き継ぐことを目指し、自然と人間との共生を基本理念として豊かで潤いのある水系環境の保全と創造を図ることを目的として活動を行っている。

当交流会の設立は平成7年8月で、活動期間は、現在で通算26年目を迎えている。平成14年3月に特定非営利活動法人の認定を受け、平成26年3月に近畿地方整備局の河川協力団体として指定を受けている。

2. 活動の概要

(1) これまでの活動

ドラゴンリバー交流会発足以来「水を創り、水を活かし、水と生きる」を理念として、水源地環境保全の取り組みでは、どんぐりの森を育てるためクスギ・コナラ等の樹木を会員が育苗し源流の山に植樹を行っている。また河川の清掃や各種のイベント等を通じて、上下流の交流を深め、講演会やフォーラム等を開催し、九頭竜川流域のすばらしさを再認識する等、活発な活動を展開してきた。特に平成8年1月19日には、九頭竜川流域の24市町村（当時）の首長が一堂に会した「九頭竜川流域サミット」が開催され、「災害に強い流域づくり」・「自然と人間が共生する流域づくり」・「上・下流住民の交流による地域連携型の流域づくり」をテーマに活発な意見交換が行われ、ドラゴンリバー交流会の活動に対し、流域全体で支援するとともに行政と一体となって活動していくことが確認された。

大野市が水源涵養や自然公園とするため平家平のブナ林を購入した際には、ドラゴンリバー交流会から感謝状を贈呈するとともに、募金活動を行い大野市や和泉村（現在は大野市）に寄付を行った。平成9年1月2日、ロシア船籍タンカー「ナホトカ号」の船首部が三国沖に漂着し、流出した重油が大量に押し寄せた際には、ドラゴンリバー交流会の会員が米・沢庵・梅干を持ち寄り、海岸の清掃活動を行っているボランティアに対して公民館で炊き出しを行った。

(2) 現在の活動

○水源地涵養植樹

日野川の梶谷ダム上流の土捨て場跡地や真名川ダム上流の笹生川沿い、福井豪雨で土砂災害にあった旧

美山町折立地区では災害を忘れないために親子たちと一緒に「ふくろうの森」植樹を行っている。足羽川ダム貯水池上流端では環境保全植樹を行っている。



環境保全植樹「勝山市平泉寺」



フクロウの森植樹「福井市折立町」

○河川清掃

当交流会が旗振り役として、大野市の真名川や勝山市、永平寺町、福井市の森田地区、中藤地区を流れる九頭竜川その他、福井市の市街地を流れる桜の名所として名高い足羽川では、地域住民と企業、団体が一緒になって春の清掃を平成7年から行っている。



九頭竜川上流域清掃「勝山市」



九頭竜川中流域清掃「永平寺町」



九頭竜川下流域清掃「坂井市」

○川に親しむ試み

地区公民館事業と協働による親子の川流れ・カヌー等の川遊び体験や水生生物調査を行っている他、大人のカヌー体験教室や、漁業協同組合の協力を得て小学生を対象とした鮎釣り教室を行っている。



中小高学生を対象とした、釣りやカヤック体験教室で川の賑わいづくりを目指している（永平寺町）



足羽川にて川流れ「福井市東郷地区」

○ミズベリング「水辺に乾杯」

当交流会が漁業協同組合、地元酒蔵、大学、鉄道会社、地元行政に呼びかけ一緒になって、鳴鹿大堰貯水池湖畔で開催している。一昨年には九頭竜ダム貯水池湖畔でも開催している。



ミズベリングin九頭竜川「永平寺町」

○水災害から命を守る「逃げ遅れ0」を目指した「マイ・タイムライン」の普及活動

平成29年度から、新しいテーマ「減災」に取り組んでいる。近年、各地で大きな災害が発生し、多くの命が失われている。平成16年7月の「福井豪雨」の際にも避難しない人が多くおり、是非、福井でも普及させたいと考えたのが、水防災意識社会の構築に向けて広報する新事業の出発点となった。これまで福井市で第1回水防災講演会を開催。福井市自主防災連絡協議会関係役員、福井県防災士会員、当交流会員が参加し「鬼怒川流域住民のマイ・タイムラインノートの取り組み」と題して行った。この講演会の参加者である日野川と江端川合流地点で水害に悩まされている新種池地区でのマイ・タイムラ

イン検討会開催を依頼され、参加者と水災害時の個人行動基準及び、地区としての住民避難はどうあるべきかを議論し理解を深めた。その際には、我々、交流会のメンバーと共に、福井県防災士会のメンバーもアドバイザーとして、各テーブルについて参加者のサポートをさせていただいた。その他、福井市舞屋地区の検討会、福井市清水北地区の研修会、敦賀市三島・津内地区の検討会、坂井市・あわら市の講演会を国、県、市や地区住民の協力のもとに行い広がりを図っている。



第一回マイ・タイムライン講演会 福井市フェニックスプラザ



福井市舞屋地区での検討会



福井市新種池地区での検討会

ちなみに、令和元年度においては、九頭竜川に親しむ会等「水系環境の普及啓発活動」10事業、川の清掃活動等「水系環境の保全と創造に関する交流事業」6事業、水生生物調査等「水系環境の調査研究事業」2事業、マイ・タイムライン講演会等「水系環境に関する広報事業」5事業、計23事業で約13千人の参加を得た。

3. 活動の効果

流域の各地において、これまで25年間で植樹した本数は記録に残っているだけでも、15,700本、苗木の提供が1,100本ある。木の種類はミズナラ、クヌギ、サクラ、コブシ、カエデ、トチ、モミジ、ケヤキ、コナラ、スジダイ、シラカシ、シイ、シバグリ、アベマキ等の苗木を育て植樹を行った。当初の頃は木を植える団体は、ほとんど無い状態だったが、現在では多くの市民団体が木を植える活動を行うようになってきている。これもドラゴンリバー交流会の活動が社会への波及のきっかけとなったのではないだろうか。



水源地涵養植樹 「真名川ダム上流大野市」



環境保全植樹 「永平寺町」



環境保全植樹「池田町大本」

足羽川河川清掃は当初、小規模で行ってきたが、今では地域住民だけでなく企業や各種団体が協力してくれるようになり、毎回1,000人～1,500人参加してくれるようになった。清掃エリアについても、当初は足羽川堤防の桜が満開になる花見シーズンの前に周辺を清掃しようと呼びかけたのが始まりだが、現在では6.5キロの区間で行われるようになっている。この他、九頭竜川中流域でも当交流会の呼びかけで清掃を行っている。上流の大野市、勝山市でも行うようになってきており、上流から中流域まで繋がってきている。



足羽川清掃大型ごみの回収風景



足羽川セイタカアワダチソウ駆除

4. 活動を展開するうえでの苦勞

活動を展開するうえで、当初は既に活動している団体を繋ぎ、連携して活動することにより目的を達成することを考えていたが、最初、そのような活動をしている団体はほとんど無く、まず地区や各分野のキーマンになれる人材を探し出し、ドラゴンリバー交流会の理念・目的を説明し、それを理解していただき賛同を得ることからはじめた。そのキーマンを中心にネットワークを形成し事業を展開している。

苦勞面では、設立当初は会員も多く、行政も色々な面でバックアップをして頂いたが、近年は会員の高齢化や減少が進み、事業費の確保等の課題が発生してきている。したがって事務局経費の削減や事業項目の削減、他事業との連携による事業費を押さえる行動展開を行うとともに、新たなニーズも踏まえた現状にマッチした活動の展開を行っている。

5. 今後の活動計画

これからの日本の夏は、気温・降水量ともに増加し、豪雨・台風・渇水等の異常気象が多発してくるものと思われる。一方、高齢化社会が進む中、高齢者の独り暮らしや高齢者世帯が増えてきており、災害弱者を地域で支える体制づくりを確立していく必要がある。我々、河川協力団体のドラゴンリバー交流会としては、行政と地区住民とのパイプ役となって、マイ・タイムラインの普及等、住民の危機意識の向上を図っていく。これまで進めてきた事業も含め、次世代において何に重点を置いて活動すべきなのかを見直しながら、事業展開を図っていくとともに、併せて上・下流域の交流を一層推進して行きたいと思っている。会員の高齢化が進んでおり、世代交代が出来るよう壮年・青年層の会員を増やすことが重要と思われるため、広報活動やカヌー等、楽しみながら参加できる事業を展開していきたいと思っている。

特定非営利活動法人 ドラゴンリバー交流会



災害ボランティア活動（ロシアタンカー重油流出時の炊き出し）



足羽川にて「福井市東郷地区」



足羽川で水生生物調査「福井市東郷地区」



足羽川支川赤谷川で川遊び「福井市折立町」